

森林のこと×皮むき間伐

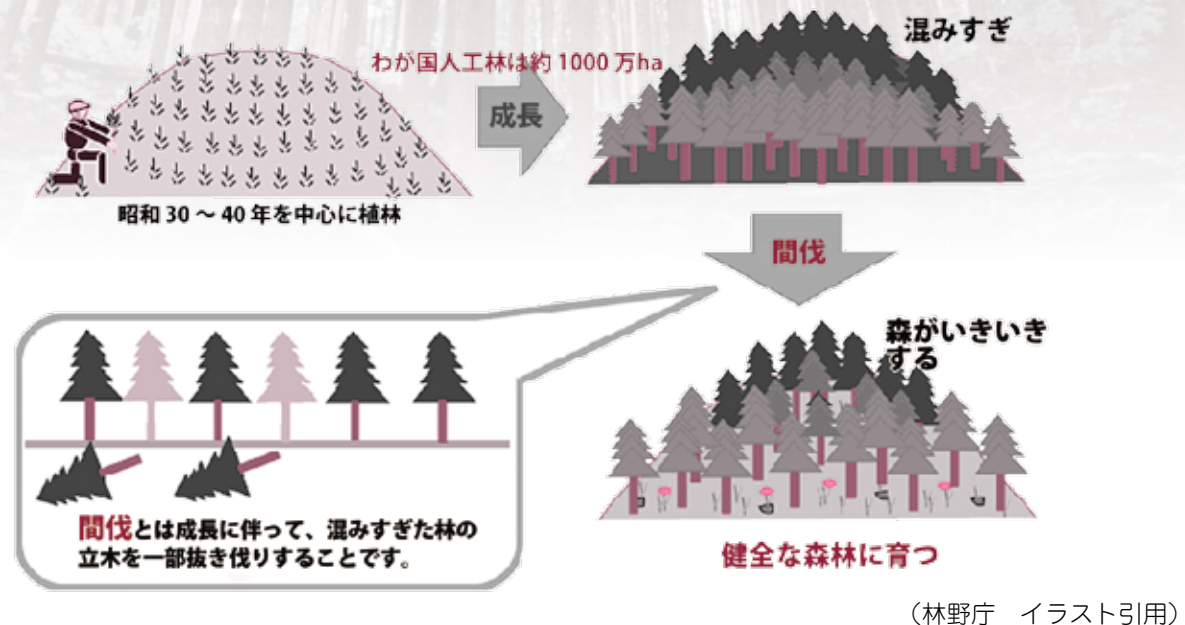
常陸大宮市には森林がたくさんあり、身近な存在だと感じている人も多いはず。しかし、意外と知らないこともあるのではないのでしょうか？

日本は国土の約7割を森林が占める森林大国。森林のうち約4割がスギやヒノキなどの人工林です。この人工林は、本来人の手を入れ成長させることを前提として、約50年～60年前に植えられています。一方で、林業従事者の減少などが影響し、放置されている木々も多くあるのが現状です。

林業という産業がある限り、森林の手入れは必要不可欠です。その手入れの中に、森林を守り、木々を豊かに成長させるために欠かせない作業の一つとして「間伐」があります。

今回は、間伐手法の中でも、だれもが実施可能な「皮むき間伐」について紹介します。

間伐とは？ 成長し混みあってきた森林の木々の一部を抜き伐る間引き作業を「間伐」といいます。一本一本の木々が適度な間隔を保ちながら、太陽光が木の根本や地面まで十分に届く環境の中で、森林は豊かに育ちます。



間伐が遅れると…

木々が混みあった状態が続くこととなり、木々の成長は悪く、下枝が枯れ上がり、どの木も幹が細長く、いわゆる「モヤシ状」の木が多い森林となります。

このような森林では、「森林の多面的機能（生物多様性保全、水源かん養、土壌保全などの8つの機能）」がうまく発揮できなくなるとわれています。

皮むき間伐って何？

「皮むき間伐」とは、夏場にスギやヒノキの樹皮（表皮から形成層の部分）だけを剥ぎ、1年間切倒さず、立ったままゆっくりと枯らす間伐手法です。

シニア・女性・子供でも実施できる長期的な森づくりを考えた一つの手段で、森林と触れ合うことができます。



皮むき間伐の流れ

- ①選木……育てる木と間伐する木を選ぶ。一度にではなく徐々に間引きしていく。
- ②皮むき…地上より木の高さの2/3ほどまで皮をむく。
- ③乾燥……最低でも1年は伐らずに乾燥させる。
(含水率30%以下になるまで乾燥)
- ④伐採……チェーンソーにて伐採する。



▲竹べらと鎌を利用して剥きはじめる



▲力と呼吸を合わせて剥いていく



▲間伐後。潤いのある木肌

◆メリット◆

- ・間伐による環境の変化がゆっくりなため植生への影響が少ない。
- ・間伐プロセス全体の敷居が下がるため、工程ごとに多くの人に参加できる（効率化できる）。
- ・大型重機を利用しないため、少量のエネルギー利用で済む。
- ・木材の含む水分量が少なくなるので、負荷をかけずに運搬が可能。

◆デメリット◆

- ・大型重機を利用しないため、効率が悪い。（多くの人に参加を促し効率化をはかる）
- ・皮むきの時期が夏場に限られる。（5月～9月上旬まで）
- ・伐採までの時間がかかる。（少なくとも1年間は伐らずに乾燥させるため）
- ・伐採は必須。伐採をしなければ倒木する可能性もある。
- ・人が森林に入ることにより、土壌が踏み固められ、土地に悪影響が出る可能性もある。（場所によっては森林の手入れより土地改良を優先させる）

皮むき間伐体験

本市の地域おこし協力隊 松原 功さんが企画し、今年も8月に体験会を実施しました。子供から大人まで幅広い年齢層の皆さんが参加し、森林と触れ合いました。

身近にある森林に、直接触れ合い、木々の大切さや魅力を感じてみたいはいかがでしょうか？



松原さんからメッセージ

「この森林をどう育むか？」は手を加える人によって異なります。私にとって皮むき間伐は、あまたある間伐手法のひとつなので、状況に応じて手法の使い分けも必要だと感じています。

現在は木工品づくりに少しずつとりかかっており、木材が必要な状況です。自分で間伐した木材を使い、自分で木工品をつくるというのは、まだ夢のような話ですが、皮むき間伐がそれを実現させてくれると思い取り組んでいます。「利用を前提とした間伐」をすることで、森林も人も喜んでくれると信じ、これからも活動を続けていきます。